

1 演習名 産業発展論(川端)演習

2 テーマ 産業分析の基礎理論と、ケース・スタディによる現状分析

3 テキスト 未定ですが、まず産業研究の方法と現代日本経済について、難しくないテキストで学びます。決まり次第ウェブで発表します。

4 趣旨

\*産業分析のレポート・論文を書けるようになって卒業しよう：産業分析の問題意識、思考と表現の方法を身につける演習を行います。調べて、考え、議論して、その結果をレポートや論文に表現することは、社会人にとって必要な能力です。世界と日本の様々な産業を取り扱います。昨年度の演習論文テーマは、日本アニメ産業の構造分析、日本のプラント・エンジニアリング産業、日本のパソコン産業におけるオープン化、コース別雇用管理は公正な人事システムか、外航定期船業における競争力、でした。

\*卒業生といっしょに学ぼう：前任教授時代から40年以上続くOB・OG会があり、年に一度「現代産業研究会」を行っています。テーマは「ベンチャー創業セミナー」、「日本経済・再生への道程」など。卒業生の講演や仕事の経験を聞いて交流できます。

\*工場見学に出かけよう：昨年度は関東自動車工業とJFEスチールを見学しました。

5 募集人員 4月進級者、編入生、10月進級者を合わせて9名。

6 参加条件

無断欠席絶対不可。ワード、エクセル、パワーポイント、パソコンのemailを使います。ゼミに入ってから練習してもまにあいます。2008年度「企業論」も受講してください。経済数学は必要ありません。文章を読みこなす力は必要です。当ゼミは経済学ベースですが、経営学と重複する部分も少なくありません。

7 選考方法(4月進級予定者) 第1、第2希望者は無条件参加。9名を超えた場合のみ選抜。第3希望は、人数に余裕がある場合に受け付けて、面談を行います。

8 運営方針

\*ゼミでは徹底して議論します。事実関係をよく調べるのが何より大事です。マルクス経済学、ミクロ・マクロ経済学、経営学のどれか一つは基礎部分を頭の中に入れて、議論に使えるように努力してください。

\*ゼミの進め方は三つのパターンがあります。テキストの輪読。レポーターが報告し、

全員で議論。各自がテーマを持って調査研究を進め、報告・討論。セミナー・旅行等の企画・進行会議。

\* 調査記録・研究報告や演習論文をゼミ誌『研究調査シリーズ』に掲載します。発行記録はホームページを参照。学生の研究計画に書籍・機材等を支援します。

## 9 担当教員の主要な研究業績

著書：(単著)『東アジア鉄鋼業の構造とダイナミズム』ミネルヴァ書房、2005年。(大野健一との共編著)『ベトナムの工業化戦略』日本評論社、2003年。 翻訳：W. アダムス& J. ブロック『アダム・スミス、モスクワへ行く』(創風社、2000年)など。 研究の応用：国際協力機構(JICA)のベトナム市場経済化・工業化支援プロジェクトに参加(2000-3年)。ベトナム開発フォーラム(VDF)に協力(2004年以後)。いずれもベトナム産業開発の研究と政策提言に従事。

## 10 指導教員が薦める本

2月に打ち合わせを行い、春休みのレポート課題を出します。

最近使ったゼミテキストを紹介します。丸川知雄『現代中国の産業』中公新書、アダムス&ブロック『現代アメリカ産業論』、橋本寿朗ほか『新版 現代日本経済』有斐閣、藤本隆宏『能力構築競争』中公新書、土屋勉男ほか『アジア自動車産業の実力』ダイヤモンド社。

11 「ゼミ見学」の可否 歓迎。金曜日の14時40分に第15演習室に来てください。

12 10月進級者に対する特記事項 なし。

## 13 その他

ウェブサイトを見て、自分の関心とゼミの予想される内容を比較してみてください。GoogleかYahooで教員名を検索すればトップに出ます。学部のページの「教員紹介」からも入れます。メールによる問い合わせは随時受け付けます。kawabata@econ.tohoku.ac.jpへどうぞ。

現在のゼミ生は8名(4年生3、3年生3、研究生2。男性5、女性3)。

ゼミ生の懇親会等も盛んです。酒を強要することはありません。

広い世界を見つめ、隠れた真実を発見することの楽しさをわかちあいましょう。